

令和四年度
合格体験記

京都府立洛北高等学校

学びゆく、意志ある挑戦者たれ

校長 川口 浩文

もう 20 年以上前の話です。四年制大学某学科の推薦入試に向けて、小論文の練習を一緒にしていた一人の 3 年生がいました。試験日当日、その生徒は受験を終えた後、学校に帰って来て試験の報告をしてくれました。それまでの傾向とは大きく変わって、課題として示された文章が英文になっていたことを、そのように大きく変更された入試であったことを、こちらが驚くほど落ち着いて話す姿に触れて、「できた？」と不躰に聞くこともできずに戸惑っていると、生徒は言葉を続けました。「それよりも思った以上に多くの人が受験に来ていて、こんなにもたくさん私と同じようなことを志す人がいるのだと実感して、嬉しくなりました。」と。一神のような人だー、と思いました。

確かに、その生徒が歩もうとしていた道は社会を背後から支える分野であり、人に注目はされにくい領域でした。それでも、入試が競争を伴うことは避けがたい現実であり、倍率の低い方が合格しやすいことが自明である中で、多くの人が集まっていることを素直に喜べる、その心のありように、進まんとする道への熱い想いを感じ、嬉しくなったことを覚えています。「普段から、どの授業も大切にしながら部活動を始めとして様々なことに挑戦していたので、予想外の英文課題の出題はそれほど動揺することでもなかったのだろう。」とは、後日、本人から合格の報告を聞いたときに持った感想です。

みなさんも既にわかっていることとは思いますが、高校卒業後の進路を実現することは、進学先・就職先を確保するという、次の入り口を開くことのみを意味するものではありません。高校 3 年間で、自分、仕事、学問、人生、家族、社会、世界、人間、科学、文化、自然……、そのような世界を対象化して考えながら、自分の進もうとする道を選択し、歩を進めていく行為となります。それは、経験したことのない世界を想像しながら編み上げていく行為ですので、わからないこともたくさんあり、迷うこともあり、不安に思うこともあろうかと思います。一方で、これからの自分の生きていく世界を広げ、自分の力を世に役立て、想い・夢を実現していく過程ですから、楽しく、また希望に満ちた行為でもあります。

みなさんに望むことは、自分をしっかり持って進路(現在および将来)を考えてほしいということです。そのためには「知る」こと、「考える」こと、「相談する」ことは不可欠です。そして、進路を実現することに向けての努力は、やりきってほしいと思います。

その際、目先の利(価値)に囚われることなく、全ての学びと挑戦を大切にして自分の力を高めてください。進路実現を合格と取り違えてしまえば、試験に出ることのみ学ぶことを効率的だとし、非効率に見えることを無価値としてしまいがちです。限られた時間の中で効率的であることは確かに必要な場面もありますが、価値基準の根幹に効率性を置くことは自己を矮小化しかねません。高校時代に大切なことは、合格する力をつけると同時に、その先の世界、ひいては社会を生きていく上で必要となる力の土台を培っておくことのはずです。まして、みなさんが生きる社会は、効率を一つの価値基軸とした大量生産・消費型社会とは異なることが予想されます。そこでは、学び続ける姿勢を持ったうえで、人と協働しながら新たな課題を克服することが求められ、これまで無価値とみなされていたものの中から価値を見出す力も必要となってくるはずです。全ての教科・課題探究の学習はもちろん、部活動や学校行事、サイエンスチャレンジやサタデープロジェクトや国際化推進事業等、教科の学習以外の活動も含めて、幅広く学び、興味を広げ深め、考え、行動することで自己を高めてください。

ここには、皆さんの先輩が合格をするまでの過程や、想い、時には具体的な勉強方法まで記されています。その内容は様々ですが、共通していることは、それぞれの先輩が皆さんのことを想い、応援してくれているということです。学びゆく皆さんが、先輩の声を聞き、意志を持った挑戦者であり続けてくれることを願っています。

最後になりますが、新たなステージに向かう多忙な中で、原稿を寄せてくださった本校卒業生の皆さんには心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

Aさん 【 東京大学 理科一類 】

1 志望校決定の過程や志望理由

以前から、人工知能や仮想現実などといった情報技術に興味を持っていたので、高校2年生の終わりごろまで、自宅から近い京都大学の工学部情報学科に行きたいと考えていました。しかし、課外活動として様々な科学系コンテストに出場していくうちに、科学全般についてできる限り深く学びたいと思うようにもなりました。そこで、大学について調べていると、東京大学にはリベラルアーツ教育というものがあり、入学から2年間は自由に講義をとれることを知りました。また、東京に行けば、京都よりも多方面で、より多くの機会に恵まれるだろうとも考え、高校3年生になるタイミングで、東京大学の理科1類を目指すことに決めました。

2 学習計画とその内容・方法

受験勉強を本格的に始めたのは、高校3年生の夏休みからだったので、夏休み以降の各教科の勉強について説明したいと思います。

国語は、学校の授業だけで済ませ、前期日程の1ヶ月前くらいに少し過去問を解くぐらいでした。

英語も、国語と同じく、学校の授業で済ませていました。また、英語に関しては高校1年生の時からコツコツ勉強していたので、特に過去問を解くようなこともしませんでした。

数学に関しては、自分の得意な教科だったので、得点源にしたいと思い、夏休み中に青チャートを3冊終わらせました。終わらせたといっても、すべての問題を実際に解いたのではなく、解法がパツと思いつかない問題と後ろにある総合問題を中心に解いていました。夏休み後は、東大模試の解き直しをしたり、学校にあった問題集で演習をしたりしていました。過去問については、前期日程の1ヶ月前から、1日1年分のペースで解いていきました。

化学と物理に関しても、数学と同じく自分の得意な教科だったので、基礎からもう1度やり直そうと思い、夏休み中は学校で購入した問題集を中心に学習を進めました。その時の学習では、どんな問題であっても、同じやり方で厳密に解いていくことを重要視していました。特に理系科目では、問題演習を進めていくと、問題ごとに違う解法で解いていき、その解法を覚えてしまいがちですが、そうなってしまうとキリがないです。また、常に同じやり方で問題を解いていれば、どんな難問でも解く事が可能になります。夏休み後は、東大模試の過去問を解いたり、その解き直しをしたりしていました。過去問は、数学と同じで前期日程の1ヶ月前から1日1年分のペースで解いていきました。

最後に自分がしていた勉強方法を1つ紹介します。それは、問題演習をノートではなく裏紙にやることです。ノートとは違って、図やグラフなどを自由に書けるだけでなく、考えたことを空いているところにメモ書きできるので、オススメです。

3 後輩へのアドバイス

まずは自分の弱点をしっかり把握して、自分に必要だと思う行動をとってください。必ずしも、塾に行く必要はないし、次々に新しい問題集を買う必要もありません。実際、私は塾に通っていなかったし、受験期にほとんど参考書や問題集を購入することはありませんでした。それでも、志望校に合格することは可能なので、自分に必要な最低限の事をしてください。そして、高校3年生の1年間は一生に一度しかないなので、それ以上は受験勉強に打ち込まずに、自分の趣味や興味のあることに挑戦して、充実した高校生活を送って欲しいです。

Bさん 【 徳島大学 医学部 医学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

僕は小学校4年生の時に医師の道を志し、当時から高校3年生の11月頃まで、自分がお世話になったこともあり、京都府立医科大学を志望校にしていました。しかし、それまでの判定は、良くてD判定で、共通テスト前最後の模試でも成績は変わらず、京都府立医科大学の学校推薦型選抜を受験することは、困難なのではないかと判断し、両親や高校、塾の先生と相談して、少しボーダーラインが低く、合格の可能性のある徳島大学に志望校を変更しました。

2 学習計画とその内容・方法

僕は前述の通り、高校入学時から医師になるという夢は持っていましたが、1年生や2年生の冬までは、特別なことをする訳でもなく、授業を受けて部活に行くという、ごく普通の生活を送っていました。2年生の12月から塾に通い始め、映像授業の塾だったので、木曜日の部活だけ休ませていただいて、木曜日の放課後と休日の部活後に塾に通って勉強をし始め、部活を引退してからは本格的に受験勉強を開始しました。学習計画としては、通っていた塾のカリキュラムに沿って、入塾してから3年生の夏休みまでは知識の蓄積（これまで学んできたことの復習と可能な限り、未履修の分野の先取り）、夏休み明けから10月中旬頃までは問題を解いて知識の再確認を行いました。僕は学校推薦型選抜を受験することを決めていたので、共通テストの点数が必要だったこともあり、10月の下旬からは完全に共通テストに向けての勉強を開始しました。共通テスト後は自己採点の結果、徳島大学に出願することができたので、出願していた一般試験の勉強と並行して、学校推薦型選抜で評価基準となる面接の練習や集団討論（医療関係のテーマ）のための知識を収集していました。

3 後輩へのアドバイス

現在の学年に関係なく、皆さんはこれから受験勉強をしていくことになると思いますが、最初は何をしたらいいのか、わからない人も多いと思います。実際に僕もそうでした。なので、皆さんに是非していただきたいことを4つ紹介します。まず1つ目は、文系理系に関係なくすることになる英単語と古文単語です。暗記は継続してすることが最も重要なので、最初は少しずついいので、自分ができる範囲で毎日続けてほしいと思います。2つ目は、これから模試をたくさん受けることになると思いますが、模試を受けた後は1回でもいいので復習するようにしてください。解説を読むだけでも何もしないよりは絶対に良いです。あと2つは基本的なことですが、授業中に寝ないことと提出物を期限内に提出することです。僕も部活をしていたので大変さはわかりますが、授業中に寝てしまうと遅れてしまって受験勉強の時に一から勉強しないといけなくなります。なので、できるだけ家でゆっくり休んで授業中は授業に集中してほしいと思います。提出物については、もちろん提出するためではありますが、家での学習習慣をつけるためにも是非してほしいです。その学習習慣は必ず受験勉強に役立ちます。

皆さんの中には、医学科に合格する人は勉強に関しては天才と思っている人もいますが、少なくとも僕は違います。成績が伸びなくて夢を諦めかけたことは数え切れないし、辛かったこともありました。でも、僕が立ち直れたのは、自分の中で医師になりたいという思いが強かったからだと思います。皆さんの中には夢がある人も夢がない人もいると思います。夢がない人はこれからゆっくり考えたらいいと思います。夢がある人は、その夢に向かって全力で立ち向かって下さい。周りの人は笑うかもしれませんが、僕も笑われたことがあります。最後に笑うのは皆さんです。皆さんなら絶対に希望する進路に進めます。応援しています！がんばってください！

Cさん 【 福井大学 医学部 医学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

幼いころにテレビで見た、紛争地で医療を届けるボランティアの方々の姿がずっと心に残っており、自分もそのような活動に関わりたいと漠然と思っていました。高校生となり、医師という職業の責任の重さを覚悟した上でもやはり誰かのために動けるような人になりたいと考えて医師を目指すことを決めました。

志望校を絞り込むためには時間がかかりましたが、大学ごとのプログラムの違いなどを調べ、自分の納得できるよう悩みぬいて決めた出願先だったからこそ後期までモチベーションが保てたと思います。

2 学習計画とその内容・方法

私は三年生の6月まで部活漬けの日々を送りました。部活と勉強の両立は難しく、授業中に寝てしまうことも多々ありました。そのため、最低限として全く理解できていない部分だけはないようにしておこうと考え、まとまった学習時間が取れる時（テスト期間など）は苦手教科の物理、数学の対策に割くようにしていました。また、得意科目だった英語のニュースを定期的に読む、AETの先生に会話練習を手伝っていただくなどして、英語に触れ続けることを意識していました。

部活を引退してからは、塾の自習室を活用して集中して勉強に取り組みました。受験勉強のスタートが遅く、時間との勝負ではありましたが、私は余裕があるとだらだらと身につかない学習をしてしまうタイプだったので、周りに追いつかねばという焦りが逆に効果的でした。ただ、計画もあいまいなまま勉強を始めたため見通しも立っておらず、身の丈に合わない難しい問題にトライしたりしていたので、夏休み中に基礎固めをしきれていなかったことは二次試験前に本当に後悔しました。

医学部入試には特に共通テストが重要になるので、共通テスト対策は11月半ば頃から始めました。その頃からは何度も間違えた箇所や整理できていない知識をまとめたファイルを作っていました。頭の中も整理されて、見返すと自信もついてよかったと思います。共通テストは基礎から出題されるからと油断しがちになり、やる気も出ないのはよく分かりますが、結果次第では志望校を変えることになるような重みを持った試験であることは知っておいてください。共通テスト対策は押さえられていなかった分野などを固める良い機会です。私は躓いた箇所は基礎に戻ってから応用までやり直してみるなどして二次試験対策に繋がるよう意識していました。この時期は学校での友人との会話などが唯一の息抜きになり、また生活リズムも整うため、学校は休まず通いました。

2月下旬の前期試験が不合格だったため、その後は気持ちを切り替えて3月上旬の後期試験で課される科目の添削指導を先生にして頂きながら試験に備えました。

3 後輩へのアドバイス

部活と勉強の両立に悩む人は多いと思います。もちろん両立ができれば完璧ですが、なかなか難しいと私も身に染みて分かっていますし、実際もっと勉強しておけばよかったという後悔もしています。ただ、もし部活を引退までやり切っていなければもっと後悔したと思いますし、部活などで得た経験や繋がり、思い出などは、辛かったことも含め後々財産になります。部活で身につけた集中力は恐らく受験にも活かされていたと思います。高校生でいられる三年間を、今しかできないことに大事に使ってほしいと思います。

Dさん 【 三重大学 医学部 医学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は人を救う仕事がしたいと思い、小学生のころからぼんやりと医師になりたいと感じていました。その中で、身近に医師として働く両親の姿を目にしたり、障がいのある方が公共交通機関で周りからあまりいい対応を受けていないのを目にしたりして、障がいのある方を医療面からサポートしたいと思うようになりました。そして、高校一年生の夏休みにカンボジアへボランティア留学をした際、ボランティア先の農村部の学校に障がいのある女の子がいました。その女の子は周りの先生、生徒からからあまりいい対応を受けておらず、日本においても障がいのある方へのサポートは十分ではない中、途上国にいる障がいのある方はもっと生きづらい思いをしているのではないかと思います、医師になって彼らの役に立ちたいと思うようになりました。

そして、途上国で医療に関わる者として総合診療も身に付けたいと思っていたため、大学は地域医療と海外交流が盛んな大学へ進学したいと考えました。しかし、地域医療と海外交流を特色とする国公立大学の医学部は多くあり、選びきれなかったため、大学周辺の環境や、自分のやりたい部活を考慮しながら考えました。

高校3年生時点の第一志望は北海道大学で、総合型選抜も含めて対策を進めていましたが、共通テストの結果と医学部女子バレー部が強いという理由から、三重大学医学部医学科を志望しました。

2 学習計画とその内容・方法

私からは部活をしていた頃の勉強を中心に話したいと思います。

まず、私は高校では硬式野球部に所属しており、高校3年の7月に部活を引退するまでは勉強に十分な時間を割くことはできませんでした。また部活を頑張ると決めた以上、中途半端に取り組みたくなかったため、引退までは塾に行かず、自学自習に取り組みました。入部してすぐの頃は、部活から帰ってきてから机に向かおうと意気込んでいましたが、実際には机に向かっても寝てしまう日々が続きました。そのため生活リズムを早寝早起きに切り替え、いかに朝の時間と隙間時間を活用して自分の勉強を進めるかが私のテーマでした。朝練がない日は、朝練がある日と同様に朝6時50分に学校に行き、自習室で勉強しました。(夏は猛暑、冬は極寒なので体調管理には気を付けてください！)また、45分の通学時間を活用するため、行きは電車で数学の演習(朝早い時間に乘れば座れます！眠い時は音楽を聴きながらしていました。)、帰りは単語の暗記や授業の復習をしました。遠征がある時もバスの中で理数系の問題を解きました。他には、考査一週間前からは放課後に学校の自習室を利用しました。

とはいえ、上位の成績をとっていたわけではなく、部活との両立に何度も苦しみました。コツコツと勉強をしているつもりでも勉強時間は十分でない上に、塾に行かないからこそ普段の授業を大切にしようと思いつつ、朝練のある日などは疲れて寝てしまいます。先生方にも心配としてなのか、喝としてなのか、部活を休みながら勉強をしてもいいぞと声をかけていただいたこともありました。ですが、一度やると決めたならやり切ろうと思い、より一層勉強に対しても部活に対しても自分を奮い立たせることができました。ここで身に付けた我慢強さが受験勉強においても本当に力になりました。

部活を引退してからは、夏休みから自習室を利用したいと思い、予備校に通い始めました。授業も苦手分野を中心にいくつか取りましたが、役に立つと感じたものは少なく、多くの時間は問題集をする時間

にあてました。私は特に理数系教科の演習量が少なく、学校ではしっかりやっていたはずなのに昔過ぎて覚えていない、というものが多かったので、基礎をもう一度固めなおすことに重点を置きました。秋からは総合型選抜の資料作りや対策を始め、総合型選抜が終わった 11 月中旬から二次試験対策、12 月から共通テスト対策といったように学習していました。そして共通テストが終わって志望校を決めてからはひたすら三重大の過去問を解き、復習をしながら基礎的な問題集で徹底的に苦手を潰しました。また 2 月に学校で勉強したことは、仲間と支えあいつつ切磋琢磨出来たのでとても良かったです。

3 後輩へのアドバイス

まず、とてもマニアックなアドバイスですが、私は共通テストの会場で、机と椅子が固定されており、机もとても高くて受けにくかったです。私はマフラーを座布団代わりにして乗り切りましたが、本番に実力を出し切れるようにそのような事態も想定しておいた方がいいと思います。

また、高校生活においては勉強にはとられすぎず、自分の興味があること、熱中できることに全力で取り組んで欲しいと思います。何かに全力で頑張ることによって自信がつき、その自信が進路実現の追い風になってくれます。しんどい時は一人で抱え込まず、誰かと分け合いながら、自分の夢に近づいていってください。応援しています！

E さん 【 滋賀医科大学 医学部 医学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

医師として働く父の姿に幼い頃から憧れを抱き、いつからか自分も医師になりたいと思うようになりました。高校 2 年生になり、本格的に進路を決めなければならなくなったとき、自分のやりたいことを実現するためには、医学部を目指し、それまで以上に勉強しなければならないと気づき、受験生としての自覚を持つようになりました。また、自分の出生地である滋賀県で、医療が行き届いていない地域の方々の助けに少しでもなれたらと思い、滋賀医科大学医学部医学科を志望するようになりました。

2 学習計画とその内容・方法

中学校の頃は、学校の課題も多かったため、考査に向けて勉強するだけで精一杯でした。ただ、自分の中で英語の勉強だけは疎かにしたくないという思いがあり、中学 1 年生から英語の塾に通って勉強していました。受験期の自分にとって、英語が得意であるということが大きな強みになったため、後輩のみなさんにも得意教科だと自信をもって言える教科を 1 つでも持っておいて欲しいと思っています。誰にとってもしんどい受験期、足を引っ張る教科に悩んでいても、1 つでも得意教科があれば、かなり気持ちが楽になるでしょう。

私が英語以外に塾に通うようになったのは、高校 2 年生の 3 学期からです。週に 1 回化学の講義を、部活がない日には映像授業で生物の講義を受けていました。洛北では生物を生物選択者だけで本格的に習い始めるのが高校 3 年生からなので、早いうちから予習をしておくのが良いと思います。覚えることが多い教科である生物は、先取りで学習しておくとかかなり有利になります。私は医学部を受験するため、生物を選択しましたが、周りの友達の中は医学部を受験する人でも物理を選択している人は沢山いたため、生物でも物理でも自分の得意な方を選択するのが良いと思います。どの教科でも共通して言えるこ

とは、疑問があれば必ず学校の先生に質問に行き、解決するべきだということです。私の場合、特に化学や数学は頻繁に質問に行き、疑問に思うことを少しずつ無くしていくようにしていました。

高校3年生の11月辺りから本格的に受験シーズンに入ります。私は滋賀医科大学の推薦入試を受験したので、小論文・面接の勉強と共通テストの勉強を両立しなければなりませんでした。滋賀医科大学の場合、共通テストと同じくらいに小論文が重視される推薦試験なので、小論文も塾で添削をしてもらい、しっかり対策しました。共通テストの対策は、とにかく全ての教科の過去問を満遍なく解くことだと思います。どの教科も共通テスト特有の問題が多く、一般的な演習とはまた少し違います。また、今年のように共通テストが難化した場合に焦らず、自分の力を発揮するためにも、たくさん練習しておくとういいます。

3 後輩へのアドバイス

学校がある日も、休みの日も塾に通い、朝から晩まで勉強することは決して楽なことではありませんでした。勉強の仕方に悩むことや、成績に悩むことなど多々あると思います。それでも最後まで諦めず志望校を目指すことが自分の夢に近づく第1歩です。これから受験される後輩の皆さんが、自分たちの進路実現に向けてベストを尽くすことができるよう応援しています。最後になりましたが、2月の最も不安な時期に添削を担当し励まして下さった先生方や家族には本当に感謝しています。ずっと支えて下さり、本当にありがとうございました。

Fさん 【 京都大学 総合人間学部 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私が京都大学の総合人間学部を選んだのは、そこに行きたかったからです。もう少し詳しく説明します。中学生の頃から京大を漠然と意識していました。学部を考え始めたのは高校に入ってからです。模試で判定のために嫌でも何か選ばないといけない。しばらくは理学部を選んでいました。というのも自分は理系で、物事の裏側にあるしくみを探るのが面白かったからです。ただ、まだ自分がしたいことがあまり定まっていない段階で、将来を決めるのが少し怖い気はしていました。そんな中、総合人間学部という学部を「発見」。高校3年の4月のことです。総合人間学部は文系でも理系でも入ることができ、入学後はそんな区分は取っ払われ、「理系しながら文系」みたいな他の学部では考えられないような学び方が平気でできてしまいます。さらに、ここだけの話、何かと楽で自由な時間が多く取れることも魅力的でした。私は何かに縛られる・強制されるのが嫌なので。以来、強烈に「総合人間学部に行きたい」と思うようになりました。この気持ちは、模試でどんな結果が出ようと、先生に何を言われようと、共通テストが終わり出願するまでずっと変わりませんでした。自分でも驚くほどの強い意志です。結果的に、今のところ過去の自分の判断に納得しています。

2 学習計画とその内容・方法

まず学習計画についてですが、私は「〇時～〇時まで△△をやる！」みたいな計画はほとんど立てたことがありません。なくてもいける感触があったからです。自分に何が足りないのか、自分は何ができて何ができないのか、及びそれらができるようになるため何をすべきか、を考える作業を、全てその時の自分

の脳内でおこなっていた感じです。ですので、私が平日・休日に何時間勉強していたか、どの問題集を何周したか、は誰も知り得ません。もちろん、計画を立てた方がうまくいく人もいますので、ここまでの話はコラム程度に扱ってください。次に学習方法についてですが、私が心がけていたことは「抽象化⇔運用」のサイクルを高速で回すことです。恐らく皆さんは、これから相当な量の問題を解くことになるでしょう。ただ残念ながら、いくら膨大な量の演習をこなしたとしても、見たことある問題だけが本番でも出る保証はないですし、第一時間が足りません。ではどうすれば良いか。ここで「抽象化⇔運用」のサイクルが出てきます。ある一問を解いた時、解答のみを覚えるのではなく、その解答に至るまでの本質となる考え方や、根本的な原理を洗い出し、自分の言葉で説明できるネタにする。これが「抽象化」です。そして抽象化したネタを次の初見の問題で利用しようとする。これが「運用」です。そしてまた抽象化に戻り、運用してください。これを繰り返すことで、少ない演習量で揺るぎない圧倒的な力を手にすることができましょう。まさに「一を聞いて十を知る」です。

3 後輩へのアドバイス

アドバイスは2つ。1、自分の頭で考える時間を多く取る。裏を返せば、授業を受けすぎない、ということです。授業は対象を複数人として進められるので、自分のペースに合わないことはあります。また、授業を受けている時間は受動的です。本番で頭を使うのは自分なのに。結局一番効率的な学習方法は独学なのです。わかるところは飛ばし、本当にわからないところを自分でじっくり考える。それでも時間がただ過ぎていくだけなら、わかっている人に尋ねる。遠回りかもしれませんが、考えた成果は確実に自分の解答力に現れます。2、勉強に触れる回数を増やす。自分の好きなことや興味があることは、別に必死に覚えようという気がなくても自然と覚えている、という経験はありませんか？これは勉強にも応用可能です。事毎に勉強した内容に触れていると、脳が「これは何度も見るから大事な情報だ。覚えなきゃ」と勘違いしてくれます。どんな方法でもいいので、反復回数を増やしてください。別に勉強を好きになる必要はありません。好きじゃなくても結果が出るやり方を見つければ勝ちです。

色々書いてきましたが、この冊子には他にもたくさんの素晴らしい先輩からのアドバイスが載っているとします。その中からあなたに合いそうなものを試してみてください。そしてあなたなりのやり方を作り上げてください。

Gさん 【 京都大学 工学部 情報学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

読みやすい口語体を意識します。気楽に読んでください。

父が京都大学で研究者をしていたため、小学生の頃から京都大学のことは認知していました。休日にはよく研究室へ連れて行ってもらい、他の教授の方々とも仲良くなったので、その頃から将来はここに行くんだろうなと思っていました。父は理学系だったので、当初は理学部に行こうと思っていましたが、幼少期からパソコンが好きで、プログラミングにも興味があったので、高1くらいのときに工学部の方が向いていることに気付きました。

2 学習計画とその内容・方法

まず断っておきますが、私のやり方は全くおすすめしません。それを踏まえて私の3年間の学習内容をお伝えします。

～2年生まで～

ほとんど何もしていなかったのが、高1・2の勉強法は割愛します。状況としては、塾なし(結局最後まで行きませんでした)、英語は英検2級レベルの語彙力しかないネイティブ程度、数学は数IIIまでの知識は一通りあり、物化は定期考査レベル、地理はダメダメという状態で3年生になりました。

～3年生秋まで～

高3になってからも、10月くらいまでは基本的に遊んでました。酷いです。真似しないでください。10月考査が終わってからは問題集をよくやるようになりました。また、週2で地理(特講と概論)を取っていたので、1週間に1度あった過去問演習を復習し始めました(授業で1回演習するごとに通し番号を振って、その番号で復習計画を管理していました。これだけはおすすめです！)。使っていた問題集は、物理がリードα(2日で1章)、化学が重要問題集(1日で1章)、数学が核心(定期考査対策)、問題集ではありませんが地理の復習(1日1回分)です。これと学校の提出物(幾分かは捨てましたが)を全て並行してやっていたわけです。真似しないでくださいね。

～模試～

高3では駿台模試と、11月の京大実戦、同じく11月の全統共テを受けました。模試が続くと体力が削がれるので、詰めすぎないことをおすすめします。正直に感想を言うと、京大実戦は受けなくてもよかったなと思います。採点の質が低く、実力がよくわかりませんでした(D判でした)。共通テスト模試は、形式に慣れておくという意味で受けておきました。安心材料になりました。

～3年生冬～

12月考査明けからは共通テスト対策と思いきや、名門の森(物理)を1日に10問くらい解きました。あとはシス単Premium(単語帳)も1日60語覚えていました。肝心の共通テストの参考書は冬休みに買いに行きました。クラスで一番遅かったかもしれません。結局1日に80ページくらい読み込む羽目になりました。

～共通テスト後～

2次試験の参考書(赤本)は、共通テストが終わってから買いに行きました。遅すぎます。何回目かわかりませんが真似しないでください。京大に関しては既に2017年度版を持っていたので、新しく最新版と、理系数学27カ年を買いました。国語と英語はほとんどしませんでした。結局1日で2年分くらいやる羽目になりました。ちなみに、塾に行っていないので、2月にあった学校の補習はほとんど出席しました。全然人が来ないので、少人数制で楽しかったです。

そんなこんなの追い込みで、なんとか試験に間に合うように仕上げました。

3 後輩へのアドバイス

そういうわけですので、私が勉強に関して偉そうにアドバイスできることはありません。寧ろ私に限らずいろんな人がいろんなことを言っていますが、自分の最適な勉強法は、自分で見つけるしかありません。というわけで壮大な話をしますが、受験期というのは、人生の中でもトップクラスに学问と真剣に向き合う期間だと思います。理系が普段やらないであろう社会、文系が普段やらないであろう理科、そういった学问にも触れられる貴重なチャンスなので、ぜひ楽しんで過ごしてください。

Hさん 【 大阪大学 基礎工学部 システム科学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は高校入学から大学受験は意識していました。当時は、京阪神と呼ばれる近畿の難関国公立大学に行きたいといった漠然としたものでした。大学で学びたいこともなかったのも、なんとなくそう考えていました。2年生の時に、AIやプログラミングを学べる学部に進学しようと思いました。見ていた学部一覧で一番おもしろそうと思ったからです。結局、3年生では神戸大学工学部情報知能工学科を志望校に決め、受験勉強をスタートしました。夏休み後、担任の先生から学校推薦型選抜の話を受けました。選抜方式が自分に向いていると感じ、何より大阪大学で行われている研究に知的好奇心をくすぐられ、推薦型での大阪大学の受験を決めました。やれる所までやってダメなら仕方ないと割り切って推薦型と一般型の両方の対策を始めました。

2 学習計画とその内容・方法

私は浪人は避けたかったので、推薦型よりも一般型に比重を置いて勉強していました。今から一般型と推薦型に分けて何をやっていったのか説明したいと思います。

まず、一般型ですが私は体育会系の部活に所属していたので7月中旬までは部活をしていました。

本格的に受験勉強を始めたのは7月の下旬からだったので成績をいかに早く伸ばすのか真剣に考えました。それまで私は毎日最低1時間勉強し、定期テストでは学年で10番以内くらいでした。特に定期テスト前は10時間以上勉強をしていました。この学習の成果があつてか自分に合った勉強法を確立し、成績を伸ばすプランを立てることができました。私は塾に通っていなかったのも主に参考書で勉強していました。日々勉強法を調べ、自分に合ったものを選びアレンジしながら進めていきました。まずは2次試験対策を重視して勉強しました。実戦模試やオープン模試のC判定を目標に取り組み、実際C判定とA判定を取りました。その時、共通テストはD判定やE判定でしたが対策すれば上げられると信じていました。11月下旬からは共通テストに完全にシフトチェンジしました。それまで共通テストは、数学と英語は2次対策の合間に勉強していたものの地理や化学は手をつけていなかったのもで覚悟を決めて勉強しました。1ヶ月前からは国語の現代文の対策をスタートしました。過去問を解き、分からない所は先生に聞きに行きました。どの教科も最後の最後まであがきました。そのおかげかすべての教科で失敗することなく満足のいく点数を取ることができました。

おすすめ参考書(物理/物理のエッセンス、良問の風、化学/DO シリーズ、数学/マセマ出版、国語/決める共通テスト現代文、漢文早覚え速答法、他/難関校過去問シリーズ、世界一わかりやすい人気大学過去問シリーズ)

次に推薦型ですが、共通テスト前に自己推薦文を提出しなければいけなかったのもで毎日1時間から2時間、大学のホームページやパンフレット、またAIについての記事や書物を調べるということをしていました。進路指導の先生に高校生の中で1番AIについて詳しくなるくらいの気持ちでやるようアドバイスを受け本気で取り組みました。調べていくとどんどんAIを好きになっていくのが実感でき楽しかったです。そして原稿作りや添削指導を繰り返し、納得いく自己推薦文を書くことができました。共通テストの後、面接・口頭試問の練習をしました。もう一度AIについて調べ直し、先生と意見交流することで自分の考えに深みが出るようになりました。なによりその時間が自分の将来を切り開いているような気が

して有意義な時間でした。やりたいことのビジョンを考える素晴らしい機会を得れたと思っています。そして、本番の面接・口頭試問も伸び伸びとすることができ、大阪大学に合格することができました。将来したいことやビジョンが不明確な人にも学校推薦型選抜はおすすめしたいと思います。

3 後輩へのアドバイス

成績を伸ばすという点に関しては、どうすればできなかった問題ができるようになるのか考えることが大切だと思います。どの知識が必要でこの発想をするには根本にこのような考えを持たないといけなくて...と逆算していくとより効率的に勉強できると思います。勉強法について、私は人それぞれだと思っています。何よりも自分で見つけにいく姿勢が必要だと考えています。人のアドバイスや自分の感覚を大切に自分で自分に合った勉強法を見つけて下さい。

また、志望する大学があるけどまだ本気になれなくて悩んでいる人は勉強に関係する何かしらに触れておくといいと思います。勉強法を調べたり勉強系 YouTuber を見たり、それだけで何か変わっていくと思います。

塾に行ったり自習室に行ったり受験を頑張る仲間を作ったりして、まずは勉強する環境を作ってください。後は自分のケアを大切に努力して欲しいと思います。みなさんが充実した受験生活を送れることを願っています。

Iさん 【 大阪大学 外国語学部 日本語専攻 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は以前から言葉の成り立ちや由来などの言語学の分野について興味があり、また中学生の時から漠然と国公立大学へ進学したいなと思っていて、塾や学校の先生とも話し合い、自分の学力のレベルで進学できそうな大学を選んだ結果、当初は大阪大学文学部を志望校にしていました。しかし、私の共通テストの点数では厳しく、大阪大学内で自分に合う学部を探したところ、外国語学部日本語専攻でも言語学が学べるということに気づき、そこに志望校を変え合格しました。

2 学習計画とその内容・方法

私は運動部に加入しながら、1年次から予習・復習（特に英語と数学）に励んでいました。

ですが、模試の成績はあまり良くなく、テストのための勉強はしていましたが模試の復習や受験を見据えた勉強はしていませんでした。そのため、このままではいけないと思い、2年生に上がるタイミングでとある個別指導塾に通い始めました。そして、その塾で配布される問題集や参考書なども利用して、2年生の冬休みから苦手だった古典の復習に取り組みました。3年生になって部活を引退すると、まず手を付け始めたのが数学でした。これは特に文系の人に大事なことなのですが、数学ができると模試や共通テストで周りに差をつけることができるので、数学への苦手意識がある方も受験に合格するためだと思って数学の勉強に力を入れてみましょう。私の場合、二次試験でも数学を使ったので泣きながら勉強していました。また、夏休みが終わるまでに地歴公民の教科書は一周しました。社会科目は学校の授業スピードに合わせて勉強していると絶対に間に合わないの、学校の進度より早く自分で進めておくことが重要です。9月～11月下旬までは共通テストの勉強と並行し、大学の過去問も勉強していました。よく

勘違いされることですが、志望校の過去問に触れるのは共通テストが終わってからでいいというのは誤りです。早め早めに志望校の問題に目を通しておくことでその大学の問題の傾向を知ることができ、その傾向に向かってきっちりとした対策を講じることが大事です。12月～年末までは共通テストの勉強を重視していましたが、二次試験の勉強も少しだけしていました。この期間に二次試験の勉強を全くせずに過ごしてしまうと記述の仕方を忘れてしまうので、少しは触れるようにしましょう。共通テストが終わると記述メインの勉強に切り替わりますが、自分の書いた記述答案は必ず学校や塾の先生に添削してもらおうようにしましょう。私は先生に迷惑だと思われるくらい毎日毎日添削を提出していました。

勉強外のことですが、私は息抜きによく SNS を見ていました。SNS のアプリを消している人は周りに結構いたのですが、私はすぐに見るのを止めれるタイプだったのでそのまま残していました。Instagram や YouTube など勉強法やおすすめの参考書を書いている方がたくさんいたので、情報源としても活用でき非常に助かりました。

3 後輩へのアドバイス

結局、受験は自分との戦いです。ケータイやゲーム、友達と遊びに行きたいのを我慢しながら勉強に打ち込む。それを徹底的に行えた人が合格を勝ち取ることができると思います。自分を押し殺して勉強し続けることは想像以上につらいです。精神的にも肉体的にも相当きついです。しかし、自分の志望校に合格するためだと思えば我慢できるはずです。「絶対に合格してやる」という強い信念があれば、何事も乗り越えられます。その心を忘れずに、仲間たちと手を取り合いながら、受験という大きな壁に立ち向かいましょう。

Jさん 【 神戸大学 農学部 資源生命科学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は、高校三年生の途中まで、志望校を決めきれずにいました。京阪神を目指せたらいいなと思っていたのと、食品関連の勉強をしたいと思っていたので、そのような勉強ができて、なるべくレベルの高いところを志望校にしておこうと思い、はじめは大阪大学を第一志望、神戸大学を第二志望にしていました。しかし、私は共通テストで思っていたような点数が取れず、リサーチの結果もほとんどが E 判定でした。また、私は阪大の二次試験の過去問で共通テストによる遅れを逆転するのは難しいと考えたので、急遽出願校を変更しました。最終的に神戸大学に出願しましたが、これは決して判定が良かったからではありません。(共テの判定はほとんどが D でした)周りからは、もう少し合格の可能性が大きいところに変更したほうが安全だと思うといったアドバイスもいただきました。それでも私が神戸大学に出願することを決めた理由は、まず一つに、両親が「もし今年残念な結果になったら、浪人してもう一度挑戦してもいいよ」と言ってくれていたからです。私は共通テストの点が良くなかったという理由だけで志望校をあきらめたら、すごく後悔するだろうと思っていたので、両親がこのように言ってくれて本当に嬉しかったし、心強かったです。二つ目は、進路指導の先生が、神戸大学の問題の出され方や、各教科の点数の配点は私にあってから、逆転できる可能性もゼロではないという内容のアドバイスを頂いたので。このアドバイスに私はすごく勇気をもらい、神戸大学に出願することを決心できました。

2 学習計画とその内容・方法

私は日々の授業を本当に大切にしていました。特に、得意科目の英語は、学校の授業や定期テストの勉強と、二次試験やセンター試験の過去問だけで完結するようにしていました。現役生は本当に時間との戦いで、いかに時間を上手に使えるかが鍵になってくると思います。そのため、得意教科だけでも学校にいる間に完結させて、貴重な放課後の時間は苦手科目の勉強に回せるようにしていました。また、勉強法ではありませんが、私は放課後は本当に眠くなってしまう人だったので、家に帰ったらまず机に突っ伏して30分間寝るようにしていました。(ベッドで寝たら絶対起きられません！)時間の無駄のように思えるかもしれませんが、その後の勉強に本当に集中できるようになったので、私と同じような方はぜひ試してみてください！

3 後輩へのアドバイス

共通テスト後に志望校を変更するのは、二次試験の対策が間に合うのかなどの不安から、とても勇気が必要でした。でも、共通テストから二次試験までは、短いように思っていたのですが、夏休みと同じくらいの時間があります。その期間に必死になって勉強すれば、多少難しいと感じるところでも手が届く可能性があることを今回の受験から学びました。皆さんの中にも、私と同じように、共通テストで思うような点が取れず、急いで志望校を変えなければならなくなる人がいるかもしれません。もちろん大幅に志望校を変えてより安全な道を選ぶのも一つのいい選択だと思います。でも、まずは自分がその大学を受けて、どのような結果に終わったとしても後悔しないかどうかをじっくり考えてほしいと思います。後悔しないように頑張ってください！応援しています。

Kさん 【 京都工芸繊維大学 設計工学域 機械工学課程 】

1 志望校決定の過程や志望理由

僕は、幼少期から自動車が好きで、特にレーシングカーにずっとあこがれていました。なので、高校に入った時から、大学では自動車のことについて学びたいと思って大学探しを始めました。そんな時、学生フォーミュラという活動をこの大学で見つけ、とても魅力を感じ、当時は高校1年だったのですがかなり早く志望校を決定することができました。

2 学習計画とその内容・方法

僕は運動系の部活に入っていたので、夜遅くに帰ることも多く受験勉強は全くと言っていいほどしていませんでした。3年になって本格的に受験のことを考えたときに僕は、家で一人で問題集を解いたり暗記したりすることが苦手で、すぐにだらけてしまうところがあったので、まず学校の授業を大切にすることから始めました。授業でできるだけ多くのことを吸収することで、家での勉強時間を減らすことができ、過度なストレスもなく終えることができたと思います。

本格的に受験勉強を始めたのは引退後で、塾には行っていなかったので学校の問題集を中心に勉強しました。受験が近づくと自習の授業が増えるので家とは違う貴重なだらけられない時間で1問でも多く解けるように意識していました。2次試験の配点が高かったのですがマーク模試よりも記述模試の成績が悪かったので、マーク式の問題でもなんとなく選ぶのではなく最後まで解き切った結果からマークす

るように心掛けるようにしました。しかしそれでも最後の模試でも結果が出ず焦りましたが、共通テストの直前は切り替えて得意な共通テストで点を稼ぐことを重視した勉強をしました。

共通テスト後は、2次試験の数学と物理を中心に勉強しました。たくさんの教科を勉強する共通テストに比べて、2次試験対策は1か月と少しの期間だけでも少ない教科に絞って深く勉強できるのでかなり伸ばすことができたと思います。国公立前期の補習にはできるだけ参加し、周りの人の受験に向けた雰囲気の中で自分を追い込んで勉強していました。

3 後輩へのアドバイス

受験勉強と聞くと毎日何時間も机に向かって勉強するというのをまず想像すると思います。もちろんそういった勉強も必要ですししなければなりません。でもそういった勉強をするためにはどんな教科でも基礎を習得しなければどの問題も手を付けることができずただ時間だけが過ぎていきます。その基礎の習得を助けてくれるものこそ、毎日の学校の授業です。とにかく授業を一番重要視して集中して授業を受けることこそ受験勉強の第一歩だと思います。授業をしっかりと聞いて、わからなかったところはできるだけ早く解決するということを続けていれば、いつの間にか受験に必要な基礎力がついているはずです。あとから一気にやるのは想像している何倍もしんどいと思うので、とにかく日ごろからコツコツわからないところを解決して、合格を勝ち取ってください。応援しています。

しさん 【 京都工芸繊維大学 工芸科学部 デザイン科学域 デザイン・建築学課程 】

1 志望校決定の過程や志望理由

京都工芸繊維大学のデザイン・建築学課程は建築学部の中だけでは珍しく、デザインに重きをおいた学びができる学科です。私は空間デザインに興味があり、この学科にとっても魅力を感じたため、受験校を決定するにあたりほとんど迷いはありませんでした。

2 学習計画とその内容・方法

私が本格的に受験勉強に取り組むことができたと感じるのは部活動を終えた6月頃からでした。それまでも定期テストや小テストには真面目に取り組んできたつもりでしたが、そのなかで自分に足りていなかったことは学習内容のより深い理解でした。今まで、時間がなくて焦ってしまうとすぐに暗記でなんとかしてしまう習慣は受験勉強において大きな障害となりました。やはり、普段からなぜそうなるのか自分が納得できるまでよく考え理解することが大切だと思います。もちろん暗記は必要ですが、理解をすることで対応の幅が広がり、暗記量を減らすこともできると痛感しました。

1・2年生の頃は家で勉強することがほとんどでしたが、3年生の夏ごろから自習室を利用して学校で勉強するようになりました。土曜日や冬休みもできるだけ学校で勉強しました。友達がいると気持ち的にも楽になるかと思います。また、秋ごろからは朝勉強も始めました。二次試験の前はその時間に英語の長文問題を一題解くということを決めていました。そして、通学時間は電車で英単語、古文単語などの暗記をする時間としていました。

私は眠たい時は仮眠をとったり、お腹がすいたらご飯を食べたり、集中できない状態で無理に勉強することはあまりなかったのですが、基本的には決まったペースで計画にそって勉強していました。1年間勉

強を頑張り続けるにはメリハリをつけて計画的に取り組むことが大切のように思います。

また、私は学校の授業と参考書をベースに勉強を進めていましたが、インターネット上の勉強動画も、数学と化学の予習などに利用していました。最近は様々な勉強動画を手軽に観ることができるので、取捨選択して活用してみるのも良いかと思います。

参考書に関してはそれぞれに合ったものを選ぶのが一番ですが、それ以上に大切なことは明確な目的をもってそれに取り組むことです。自分が確実にレベルアップできていると実感できるように取り組み方を工夫し、無駄な作業にならないよう気をつけて下さい。また、早い時期から自分の志望校の出題傾向を把握しておく、より本番を意識した学習ができるかもしれません。

3 後輩へのアドバイス

総合型選抜入試に関してですが、私は京都工芸繊維大学のダビンチ入試という試験を受けました。志望理由書を作成するにあたっては、自分が将来何をしたいのか具体的に考える機会になりました。さらにその対策のなかでデザインや建築に関する本を読んだり、課題に対する自分の考えを文章にまとめたり、グループディスカッションをしたりと大学での学びに少し近づけたように思います。残念ながら不合格となりましたが、自身の目標が明確になり、大学で学ぶ内容にも触れることができたので、結果的には受けてよかったと思っています。志望校にこういった入試方式がある方は選択肢の一つとして受験を考えてみてはいかがでしょうか。ただ、結果が奮わなかった場合のメンタル面を考えて、発表までの期間は、総合型選抜は落ちたものとして一般入試の勉強に取り組むようにしましょう。

この一年が皆さんにとって有意義な時間となるよう心から願っています。

M さん 【 京都工芸繊維大学 工芸科学部 デザイン科学域 デザイン・建築学課程 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私がこの学校を志望したのは建築学を、特に意匠分野に力を入れてデザイン視点から学べるというところに惹かれたからです。まず志望校を決定するには様々な条件から絞る必要があると思いますが、私のように学びたい分野を決定している人は比較的決めやすいかと思います。だからと言って私も早くから決まっていたわけではなく、色々と調べていくうちに辿り着いたという感じです。もともと理系に進んでいるからには専門分野を学んで自分の武器を持ちたいと思っていましたが、研究も理系教科にもさほど興味はありませんでした。その中で自分の好きなことを考えた時、近代建築や古民家、住宅の内装やインテリアを見るのが好き程度で建築分野に絞って調べ始めました。建築とひとことに言っても建物の設計に強いのか、保存・再生に強いのか、はたまたランドスケープに強いのかたくさんの得意分野を大学はそれぞれ持っています。この学校は他大学と比べてデザインと建築どちらも学べるという特徴を持っており、建築士になりたい人もデザイナーになりたい人もたくさんいて良い影響を受け合いながら学ぶことができます。

2 学習計画とその内容・方法

私は総合型選抜のダビンチ入試という選抜方法で合格しました。一般受験の前にある総合型選抜は勉強の時間を取られると嫌煙されがちですが、受けて絶対に損にならないものです。合格したから言える

といわれればそうですが、自分の将来を考えより強く志望するきっかけにもなりました。

私が本格的に塾に通って勉強を始めたのが2年生の11月頃からです。それまでは定期テストの勉強しかしていませんでした。私は硬式テニス部に所属しており、1,2年生の間は部活に専念すると決めて生活していました。普段の授業内容で分からないことがなく理解できていたので成績をそれなりに取ってそれ以上の勉強はしていませんでした。塾に通い始めてからは、家だと疲れて何もしなくなるので学校から直接塾の自習室に通っていました。3年生の夏休み前半までは理系科目の先取りを徹底し、とにかく二次試験に必要な教科の範囲を終わらせつつ復習もしていました。夏休み後半からはダビンチの対策として、志望理由書を書くことから始めました。いざ志望理由を考えると意外と大学のことを知らなかったりします。ここで時間を取られることは必須なので普段から調べたりしておくといいです。夏休み明けからは一次試験の論述対策を学校の先生に見ていただきながら進めました。また日常的に建築雑誌や新聞を読んで自分の考えをまとめる練習をするよう心がけました。一次に合格した後は一般の勉強と半々くらいの割合で最終試験の対策を行いました。グループディスカッションとプレゼンだったので引き続き先生に見ていただいたり、そこら辺の友達を捕まえて人前で話す練習をしたり質問してもらったりしていました。

3 後輩へのアドバイス

総合型選抜で見られているのはあなたの学習意欲と人間性です。その学校にとってほしい人材を学力面から計るのではなく、面接や志望理由などを見て判断しています。ダビンチ入試ではひたすら論理的思考力が問われました。大学側が何を求めているのかをよく調べて記述や口述で自分の考えを説明できるようになれば大丈夫です。一見難しそうに感じますが、受験機会も増えて良い経験になります。これから受験を控えている皆さんはぜひ少しの勇気を持って、総合型選抜という選択肢を捨てないでほしいと思います。

Nさん 【 京都教育大学・教育学部・英語領域専攻 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私が京都教育大学に行きたいと考えるようになったのは、高校2年の時でした。高校では理系を選択していたので、理系学部に進学するものだと考えていました。しかし、理系学部でやりたいことが無く、進路に悩んでいました。そこで私は自分が本当にしたいことは何かを考え、一番身近な存在であった教員になりたいと気づきました。私になりたいのは高校教員だったので教育大学へ進学する必要はありませんでしたが、教育大出身の先生は生徒と心の距離が近く話やすく感じたので教育大学を選びました。

2 学習計画とその内容・方法

3年の夏休みまでは1、2年の範囲の復習を主にしていました。3年になって本格的に始めた受験勉強ですが、塾へ通っていません。何から始めていいか分からなかったため、スタディーサプリを使って勉強を始めました。学習計画を立ててくれるのでほぼその通りに進めていました。1、2年の範囲を復習するには勿論、文転する際に必要な教科で学校で習っていない範囲の勉強にも役に立ちました。2年まではスマホを触る時間が長かったけど、スマホを使って勉強することで勉強時間を確保することに成功しました。

夏休みに入ってから参考書を使っての勉強を始めました。参考書選びで気を付けたことはその科目は共通テストだけなのか、二次試験でも使うのかによって必要な参考書を選ぶことです。また、自分に合う合わないもあるので、ネットで調べて数を絞ってから実際に書店で見て決めました。私の大学は共通テストの配点が大きかったので、共テ対策に力を入れていました。具体的には、国語、数学、英語は共テ形式の問題演習を、理科基礎は問題演習を、社会は何度も読んで暗記しました。特に現代社会は習っていないところや忘れていたところが多かったので、10分休憩にも開くなど他よりもかける時間が長かったです。国語、数学、英語に関しては、解法を忘れたり、単語や文法を忘れたりなどして腕が落ちやすいので、毎日少しずつは勉強を続けていました。

3 後輩へのアドバイス

小テストや定期試験対策の勉強は意味がないと思っている人も多いかもしれませんが、テスト勉強は受験につながる大切な勉強だと3年になって気づきました。小テストのために直前に詰め込んだり、理解が浅かったりしていつか復習しようと思っても、学校では新しいことを次々と習うので、なかなか手を付けられません。毎回の小テストや定期試験に向けた勉強、復習はそのときにやるべきです。

何から始めたら良いか迷ったら先輩や友達を参考にするのも良いかもしれませんが、人によって自分に合った勉強方法は異なります。塾へ行っても伸びなかったり、家だと集中が続かなかったりするかもしれません。合っていないと思ったら思い切って勉強方法や勉強場所を変えてみてください。それを繰り返すとそのうち自分に合った勉強方法が見つかると思います。

〇さん 【 京都教育大学・教育学部・発達障害教育専攻 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私はもともと文学部に進学して日本史を学びたいと考えており、教育学部を受験することを決めたのは高校3年生になってからでした。家から通える国公立大学しか受験できなかったのですが、高校2年生の頃は京都府立大学を志望校にしていたのですが、学力的に届きそうにないと判断し、比較的共通テストのボーダーラインが低い京都教育大学を受験することにしました。

それでも自分にとってはレベルが高い大学だったので合格できる気がせず、どうせ無理だろうと思ってなかなかモチベーションが上がりませんでした。ウェブオープンキャンパスや大学の説明会に参加してから、自分が小さい頃先生になりたいと思っていたことを思い出し、どうしても京教に行きたいと思うようになりました。また、私には自閉症をもつ従姉妹がいることから、特別支援に関わる勉強がしたいと思い、特別支援学校1種免許状も取得できる発達障害教育専攻を選びました。

2 学習計画とその内容・方法

私は音楽研究部と囲碁・将棋部に所属しており、高校3年生の夏休みまでは将棋とギターばかりしていて、本格的に受験勉強を始めたのは周りの友達に比べて遅い方でした。私が意識していたことは「基礎を徹底すること」と「得意科目をつくること」です。

京都教育大学は共通テストの配点が高く、二次試験に英語がなかったのですが、英語はとにかく単語を覚えることだけに集中して取り組みました。共通テストは全て長文問題です。長文に慣れることも大切です。

が、英語が苦手な人はまずは単語をすることが共通テストに立ち向かう近道だと思います。単語を覚える時に重要なことは「100～200語を一気に覚える」ことです。もちろん一回で100個も覚えられるわけがないので、最初は20個ぐらいいしか頭に残らなくても全然OKです。それを繰り返すことによって、だんだん頭に残る単語が増えていきます。真面目な人ほど一つずつ丁寧に覚えていきがちですが、「ざっくり覚えて繰り返す」が英単語を覚えるコツだと私は思っています。

私は数学がどうしてもできなかったのですが、それをもともと得意だった倫理を極めてカバーしました。学校で買った問題集一冊をひたすら繰り返してすると、定期テスト、模試、共通テスト本番の全てで9割を安定して越えられるようになりました。難しい参考書をたくさん買う必要はなく、共通テストには学校の基礎的な問題集で充分だと思います。また、得意科目があるとモチベーションアップになります。勉強を続けるためには自分の強みを見つけることが大切です。

秋から冬にかけてはセンター試験の過去問と学校の問題集を交互にしていました。過去問でアウトプットをたくさんすることにより、覚えた気になっていただけたけれども覚えられていないところや、理解していないところをあぶり出すことができます。センターの過去問は共通テスト対策に使えると思うので10年間分くらいできると理想だと思います。

3 後輩へのアドバイス

私が一番伝えたいことは「勉強も遊びもする」ということです。高校3年生になったからといってずっと勉強だけをできる人ばかりではないと思うので、自分のやりたいこともしっかり時間をつくってしましましょう。私は受験前にも関わらず、囲碁・将棋部に入り浸っていましたが、そこで部活の仲間とたくさんくだらない話をして、精神的に支えてもらいました。

これを読んでくれているあなたも、もしかしたら受験勉強がはかどらず、勉強をしない自分に嫌気がさしているかもしれませんね。私は頑張って洛北高校に入学して、授業を受けて、大学受験について色々考えているだけで、あなたは充分すごいと思います。だから、あとちょっと勉強するだけでもっとすごい人になれるのですから、気分転換に楽しいこともしながら、あまり気負わずに勉強しましょう。焦って勉強するより、余裕をもって勉強の方が意外と身になるかもしれません。

1歳差で洛北高校を卒業した者として、みなさんのことを心から応援しています。

Pさん 【 岡山大学 農学部 総合農業科学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

「世界ふしぎ発見！」きっかけはこれです。この番組で取り上げられた農学博士に憧れ、調べてみると岡山大学の教授であり、さらに岡大農学部について調べてみるとなんと興味のある研究があるじゃないか、じゃあ受けよう、といった具合です。また、都市部にあるキャンパス内に広大な農地を所有していたり、総合大学であったりと条件が良かったことも志望の決め手になりました。

2 学習計画とその内容・方法

2年生2月の共通テスト模試は合計457点、特にリーディング28点。ヤバイヤバイと言いつつも部活の夏季大会が終わるまで大した勉強はできず、結局3年の夏休みから本格的に受験勉強を始めました。

塾は性に合わなかったの、家と学校で勉強しました。学校に行ける日は早起きして制服に着替えて学校に行けと担任の河村先生がよくおっしゃっていたのですが、それが一番いいと僕は思います。友達と教えあったり、たまにランチしたり、みんなで集中して勉強したりするのは楽しかったです。また先生方に教えを乞うことができるのは大きな利点です。

8月末に岡山大学一本に絞り、12月の学校型推薦を受けることにしました。出願をして大ミスしたことに気づきました。実はかなり生物の内容が多く含まれていて、物理選択の僕にはなかなか厳しかったのです（まあ農学ですからね笑）。推薦の日までは生物の勉強、小論文・口頭試問の対策を追加でやったのでしんどかったです。先生方にみっちり指導していただきましたが、不合格でした。（良い経験を積んだとは思っています。）

結局僕は前期試験で合格したのです。それまでの過程をお話します。

教科書と参考書とを繰り返し音読しました。家で勉強する利点はどれだけ声を出そうとウロチョロしようと他人に迷惑をかけないことです。問題集も日を明けて同じ問題を数回解きました。

11月後半からは完全に共通テスト対策に移り、センター試験や模試の過去問を解いては復習を繰り返して傾向をつかみました。そんな感じでリーディングは本番80点とれました。

2次試験の物理と化学とは共通テストのためにちゃんと勉強しておけば、かなり対応可能だと思います。問題は数Ⅲと英語だったので、補習にいたり、先生に添削をしていただいたりして対策をしました。ちなみに試験の直前まで学校に通っていたのですが、友達と会うことで落ち着いていられたと思います。

3 後輩へのアドバイス

とにかく試験内容はしっかり確認しておきましょう（笑）。あとは早寝早起きをする、3食食べる、外で適度に体を動かす、もうこれに尽きるんじゃないですか？いや大切なことがあと1つありました。それは楽しむことです。苦手な科目の授業中でも「わからんのもなんか楽しい！」とか思っちゃえばいいんですよ。僕なんか試験中笑ってましたし。

受験は大切ですが、気を張りすぎず楽しんで乗り越えてください！応援しています！

Qさん 【 滋賀医科大学 医学部 看護学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私が滋賀医科大学を志望したのは、共通テストが終わり合否判定が出た後でした。それまでは別の大学を目指していましたが、看護学部は2次試験の割合が低い大学が多く、共通テストの結果でほとんど合否が決まってしまうのでその大学に挑戦することはしませんでした。看護師になるという夢を叶えるため、国家試験の受験資格を得られる看護学部に進学することが1番の目的だったので、両親や担任の先生と相談をした結果進路変更をしました。

2 学習計画とその内容・方法

英単語や古典単語は3年生になってから少しずつ覚えていましたが、夏休みに入っても覚えられていない単語が多かったです。共通テストでは国語と英語は得点源でしたが、もっと早い時期に単語を完璧

にしておけば実践的な問題に取り組む時間も増やせてより自信を持つことができたはずなので、単語は夏休みまでに完璧にしてほしいです。夏休みは毎日英語の長文、古文、評論文または小説を1題ずつ解いていました。慣れてくると、自分なりの読み方が分かってきます。評論文や小説では、選択肢を絞るところまではできても最後は勘で選ぶことが多かったのですが、読み方が身についてくると根拠を持って解答することができるようになりました。英語のリーディングは大問順ではなく順番を変えて読むようにしていました。模試などで自分が解きやすい大問とそうではない大問を見つけ、文章量と配点も考慮しながら読む順番を変えると、余裕を持って時間内に解き終えることができるようになりました。数学は解けなかった問題を切り取って自分の苦手ノートを作っていました。ノートが埋まってくると何度も同じような間違いをしていることに気付くので、苦手分野を集中的に対策しました。また、解法パターンも分かるようになるので、同じような問題が出た時にも対応することができるようになりました。理科と社会は3年生の秋頃まで教科書全ての範囲が終わらないので、授業は特に集中して聞き、復習や定期考査の勉強に力を入れていました。

3 後輩へのアドバイス

時間が無いからと言い訳する人は時間があってもやらない。これは顧問の先生がよくおっしゃっていた言葉です。私が2年生になってから、テスト1週間前でも平日は毎日朝練習と夕方練習が始まり、家に帰ってからも疲れてやる気が起きなかったり、ダラダラしてしまったりすることが多くなって、確立した勉強習慣を身につけることができていませんでした。自分の中で部活を言い訳にしまうこともありましたが、自分のやる気や工夫次第で勉強する時間は十分にとれたはずですが、何かを言い訳にすることなく、目の前にあるやるべきことから目を背けずに取り組んでいってください。受験勉強は不安でしんどいことがたくさんあると思いますが、洛北高校には熱心な先生方や2次試験まで勉強を続けて一緒に頑張れる仲間がたくさんいます。決して孤独にならずみんなで支え合って受験を乗り越えながら高校生ラスト1年間も全力で楽しんでください。私自身、最終的な進路選択に今は全く後悔していませんが、第1志望校を諦めることになった時はとても辛く、簡単にできた選択ではありませんでした。なので、みなさんにはぜひ第1志望校に合格してほしいと思います。心から応援しています！頑張ってください！

Rさん 【 奈良県立医科大学 医学部 看護学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は、医療を題材にしたテレビドラマや、新型コロナ禍での医療現場を伝えたニュースなどを見て、看護師になりたいと思うようになり、看護学部を志望しました。大学の決定ではかなり悩み、夏休み前までは違う大学を志望していました。奈良県立医科大学に志望校を決定した理由は、具体的に言うと、家から通いやすいという点や、附属病院があるという点もあったのですが、最大の決め手は、その附属病院が奈良県の災害拠点病院であり、D-MATの活動も行っているという点でした。私は災害医療に関心があったので、自分のやりたいことを実現できる可能性を捨てないようにしたいと考え、決定に至りました。部活動を引退して、本格的に受験とだけ向き合う夏休み前は、一度自分の志望校について考え直す時期になると思います。大学に入って何がしたいのか、そして将来どのようになりたいのかを考えるということが、志望校決定のヒントになるかもしれません。

2 学習計画とその内容・方法

私は高校二年生の冬頃に受験勉強を始めるまで、模試の振り返りや授業の予習復習は特に行っていませんでした。高校一年生、二年生のころにやっていた勉強は小テストや定期テスト前の勉強だけです。ですが、定期テストに向けた勉強を頑張っていたと思うことが、受験勉強中に多くありました。特に数学では、テストのときには公式の暗記のように解いていたものが、受験勉強をしているうちに、単純な暗記から公式を理解して応用できるように変化していく感覚がありました。また、日本史ではテストで覚えて記憶に残っていた単語たちを、歴史の流れに沿ってつなげていくような感じで勉強を進めることができました。定期テストはただの暗記と考えている人もいるかもしれませんが、暗記から理解につながることもあるのでぜひ定期テストは全力で挑んでもらいたいです。高校三年生になると、塾に通うのか通わないのかという問題が出てくるとは思います、それはどちらでもいいと思います。私は集団塾で数学と英語の授業を取っていましたが、塾に通っていてよかったと思う点は、洛北以外の高校に通う知らない人と一緒に授業を受けることができる点です。本番の受験会場は近くに知り合いがいるわけではないので、その空気感に慣れることができたと思います。また、塾に通う人はみんな志望校に向けて志を高く持っている人たちなので、週に一回の授業でも授業に出ると、受験に向けて気が引き締まる感覚がありました。勉強自体は結局自分がやるかやらないかなので、塾は勉強の指針を教えてくれる場と考えたほうがいいかもしれません。

ここからは、看護学科の二次試験でよく行われる小論文と面接試験について話します。私も、二次試験はこの形式でした。どちらの対策も11月ごろの公募試験に向けて少しやった程度で、本格的には共通テストが終わってから始めました。小論文は、はじめはどう書いたらいいのかわからなくて、困惑すると思いますが、根気よく何度も書いていけば、書けるようになっていきます。私の場合、2月6日にあった私立の入試が終わってからは、毎日一本新しい小論文を書いて先生に提出し、前日の添削の直しを完了してから家に帰るという風に習慣づけて対策するようにしていました。小論文の入試では傾向が変わることが割とあるので、志望校以外の大学の問題を解くこともおすすめします。また、入試に頻出のテーマの解説などを書いた本があるので、それを読むのも小論文の型をマスターするのに役立つと思います。図書室で借りることもできるので、一度読んでみてほしいです。面接の対策としては、文の丸暗記ではなく、伝えたいことや志望校への思い、自分の理想の将来像を考えて、明確にしていくことが重要だと思います。学校の先生方に頼めば何度でも練習に付き合ってくれ、アドバイスをくださるのでそれも活用して考えていけばよいと思います。私は、何度も学校で練習して入試に臨んだからか、本番は案外あっさり終わったように感じました。小論文や面接は、自分と向き合う時間が多くなりますが、気を抜かず最後まで頑張ってください。

3 後輩へのアドバイス

受験勉強はしんどいことも多かったですが、今考えると受験勉強を頑張ったから変わった自分がいるようにも思います。夏休み頃は特に、終わりが見えないうえに、勉強の成果が模試での結果にも表れずらいでしょうが、自分なりのリフレッシュ方法などをうまく見つけて頑張ってください。受験は個人戦とはいいますが、時には仲間や先生を頼って、そして志望校に向かって最後まで諦めない気持ちがあれば、夢は実現すると思います。楽できる道はいくつもありますが、自分の本当にやりたいことややりたい姿を見失わないようにして進んでいってください。

S さん 【 奈良県立大学 地域創造学部 地域創造学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は1年生の頃別の大学を第1志望に決め、それは結果的に3年間変わりませんでした。自分の学力では足りていなかったのですが、他に特に迷っている大学が無く、推薦から後期まで受けると決めていたので、落ちたら公募推薦で受けた私立に行こうと思って最後まで受けました。この大学の存在を知ったのは共通テストのリサーチが返却された時で、同じ大学・学科を志望している人の他の志望校が載っている欄にこの大学があり、調べてみると自宅から通えて日程もかぶっていませんでした。判定は悪かったのですが、中期試験の二次配点は多かったのもので、その巻き返しに賭けようと思い出願しました。中期入試の日に初めて大学に行った雰囲気と、興味のあった文化学や観光学を広く学べるということで自分にあった条件だと思ったので試験後に検討し、受ければ行こうと決めました。

2 学習計画とその内容・方法

学習時間を増やさない、と思ったとき自分が普段日常生活でいつ勉強しているのかを把握するため、本で読んだ逆カレンダーというものをやってみました。自分がいつ何をして過ごしたのかを寝る前に思い出してカレンダーアプリにつけるというものですが、これをやると時間が視覚化されて無駄になっていた使える時間が見えてくるので計画が立てやすくなったと思います。また私は英語がとても苦手なためこれはかなり致命的だったので、単語力と読解力をつけることを頑張りました。入試問題を読む中で文中に出てきても、複数回間違ってしまうものにしるしをつけ、寝る前や模試の前などに見直したりしました。演習は本当に慣れだと感じました。共通テストも個別試験も、知識が不足していても解いてみることで形式をしっかりと理解できて、それを踏まえた上で勉強の仕方が改善できると思います。

基礎科目や歴史は秋から追い込めるなどと聞くことがありましたが、自分には無理だったと思います。時間があつた時は模試で間違ったところの解答解説の図や表でまとめられたところをノートに貼って書き込み、参考書と合わせて復習に使っていました。

また小論文を受ける予定があつたので関連分野の新書は時間のあるうちから少しずつ読んでいました。現代文の記述対策にもなっていたかもしれないです。

3 後輩へのアドバイス

私は具体的な夢がなく、何をしたいのかわからないでいましたが、自分が興味のあることを深めようと思えば、行きたい分野も見つかったし、それを実現させるという意志が勉強のモチベーションをあげていたので、目標は絶対掲げたほうが良いと実感していました。あと受験勉強は長丁場になるので、体調管理とメンタルの管理が必須です。私は割と朝型だったのですが、秋の推薦入試の時期あたりは緊張や不安で、朝早くに目が覚めてしまう日が続いたりしていました。ストレスを溜めこまないためにも規則正しい生活は心がけたほうが良いです。いつもいいコンディションで勉強したほうが質も上がると思います。限られた時間の中でも自分で納得がいくまでとことん諦めずに最後まで頑張ってください。

Tさん 【 岡山県立大学 情報工学部 人間情報工学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

僕が志望校について真剣に考えるようになったのは高校 3 年生になってからです。それまでは工学系に行って 1 人暮らしがしてみたいなという思いしかありませんでした。共通テストが終わって前期に受ける大学が決まっていたのですがそれでは不安だったので国公立中期、後期を受けようと調べているとき友達が岡山県立大学について調べていました。そこから自分でも調べ始めて岡山だったら一人暮らしができて、キャンパスが 1 つにまとまって、人間情報工学科という面白そうな学科があるという点から岡山県立大学を志望しました。

2 学習計画とその内容・方法

高 1 の時は成績が悪くこのままではまずいと思い冬休みから自分の得意だった数学のチャート I A を毎日 5 問ずつ解いていました。それを続けることができて 3 か月ぐらいで一周を終わらせることができました。他の教科は学校の宿題だけをしていて、僕は電車通学だったので乗っている間単語を覚えていました。英語は苦手意識があって全然勉強していませんでした。

高 2 の最初の時コロナウイルスが流行り学校が休校になっている期間は課題だけして自習は一切していませんでした。休校期間が終わった後の模試の成績が悪かったのでチャート 2 B を毎日 5 問、チャート I A も同時並行で進めていました。物理は学校で買ったリード α と物理のエッセンスを使って学校の定期テストに合わせて勉強していました。

高 3 の夏休みが終わるまでは今まで通り数学はチャートを授業に合わせて進めていました。物理は高 2 に使っていた参考書に加えて良問の風をしていました。英語は UPGRADE を隙間時間にして長文を毎週読むようにしていました。

過去問は 12 月から徐々に取り組み始めました。参考書に飽きてきた時に気分転換で解いていました。時間は実際よりも短めに設定して解いていました。

僕は共通テストのマーク形式が苦手と特に国語と英語が足を引っ張っていましたが苦手すぎてその 2 教科の勉強をするのを避けていました。もっと苦手意識をなくして勉強していればよかったと思います。化学は苦手でしたが冬休みに詰め込みました。

3 後輩へのアドバイス

高 3 の 1 年間はあっという間に過ぎてしまいます。なので入試から逆算して勉強計画をたてたほうがいいと思います。入試は何があるかわかりません。今年の共通テストは過去最低で自分の実力が最大限発揮できない人が多くいて僕も結果は良くなかったです。

高 3 の早い段階で色々な大学を調べたほうがいいと思います。共通テストが終わってから調べ始めると焦りがでてしまい勉強に集中できません。また体調管理は気をつけてください。入試前に熱が出ると大変なことになります。

自分が通いたいと思う大学を見つけて頑張ってください。応援しています。

Uさん 【 上智大学 総合人間科学部 社会福祉学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は東京で大学生活を送ることに漠然とした憧れがありました。他の方の真面目な志望理由とは大きくかけ離れたふざけた理由ですが、私にとっては志望校決定の割と大きな理由の一つでした。そして、これをお読みになっている皆さんもそうですが、洛北高校生であったことも大きな契機であったと今になって思います。洛北高校は国公立大学への進学者が比較的多いです。私は負けず嫌いなので、「私立専願だけど国公立に少しでも勝ちたい。」と考えました。最初に述べた東京への憧れと、この考えを共に実現しようとなると、早慶上智に進学するしかない訳です。もちろん当時は口先だけで全く勉強もしていませんでしたので冗談半分でしたが、一年間の受験勉強を経て、上智大学に現役合格し、進学することになりました。

2 学習計画とその内容・方法

まず高二の冬に受けた共通テスト模試の教科別偏差値を出しておこうと思います。英語 35、国語 45、世界史 50 です。これを知ってどう思われたでしょうか。「いやアホやん。なんで受かったん。」そう思ったあなたは間違っていないです(笑)。自分も本気で受かるとは思っていませんでした。というより、ただ勉強するだけでは恐らく受かりませんでした。つまり、「受験は作戦が超重要」ということです。では具体的な内容についてですが、これは一例に過ぎず、私に適していただけで皆さんにとって必ずしも良いものでないことを先に断っておきます。まず、併願校を含めた受験校決定の段階で、共通テストと国語もしくは社会一科目で合否が決まる大学ばかり選びました(首都圏の私大に多く見られる入試方式です)。理由としては、先述の偏差値の通り、英語がとても苦手だったからです。私大の英語はとても難しいですが、共通テストの英語はコツさえ掴めば8割は取れます。具体的には単語帳一冊を常に完璧にすることが有効で、長文の内容を理解するには語彙力が最も重要です。実際に単語帳を完璧にただけで、私は偏差値 60 まで伸びました。共通テストに関して難しい対策は必要ありません。これをお読みになった方は、今日から単語帳の学習を毎日してください。その効果にきっと驚くはずですよ。また、私は世界史が好きでした。好きな科目の勉強は苦じゃないので、一問一答や教科書そして日々の授業を駆使して、夏に偏差値 70 まで伸ばしました。暗記科目だったこともあると思いますが、「勉強が嫌になったときの逃げ道としての好きな科目」を持つことはとても大切だと思います。受験勉強を少しでも楽しめるようになると気も楽になります！

3 後輩へのアドバイス

私はずっと学年最下位レベルの生徒でしたが、一年間の学習を経て、上智大学に現役で合格することができました。特に今、全然勉強ができない人に伝えたいのは、「最後まで絶対に諦めないで」これに尽きます。周りの意見は気にしないでいい。ただ本気でひたすら勉強してください。皆さんのことを心から応援しています！

Vさん 【同志社大学 法学部 法律学科】

1 志望校決定の過程や志望理由

法というのは日々の暮らしを形作っているものです。しかし法律は膨大で知らなければ馬鹿を見る。だから法学に興味がありました。

本命の立命館も模試ではせいぜい C、オール E の同志社はワンチャンあったらいいなと 1 回しか受験しませんでした。しかし同時に、料理が好きなので最後まで管理栄養士や調理師も迷い、恰好いいので救急救命学科にも出願しました。

立命館も関大も全て受かったので迷いましたが、毎日前を通っていて憧れだった同志社に受かることができたため進学を決めました。

2 学習計画とその内容・方法

私は出席も成績も卒業ギリギリ、平均評定 3.4 で普段勉強する習慣のない人間でしたが、家では勉強できないので私設自習室に 3 年の 11 月から通いました。

本当はもっと余裕をもって取り組むべきでしたが、10 月頃から周りが本格的に勉強し始め、それに合わせてなんとなく、また親に大学受かったら一人暮らししてもいいよと言われ勉強を始めましたが、そもそも最初に何をすべきかわからない。学校指定のものは全然合わないのであと 3 か月で、試験語句の 8 割位載っているテキストを探しました。

世界史は残りの時間が少ない、夏休み怠けていたので全体像の把握ができていない状態から一般前期で欲を言えば 8 割は欲しい、1 か月で 3 周したい、山川なら安心、と考え、基礎を沢山回そうと周りよりずっと薄い「世界史 30 日完成」を選びました。正直、同志社には不足なところもありましたが、これは 1, 2 年にも本当におすすめ。流れがよくわかり、重要語句も抑えられます。これを赤シートで繰り返し行い、入試本番までに 5 周しました。

英単語が分からなければ話にならないため「シス単」をチョイス。(使っている人が多いほうが、入試の時わからなくても慰めになりました) 入試までに様々な時間で 10 周弱しました。関関同立レベルではシス単レベル 4 以上は大抵注釈に乗っているので必要なく、むしろ低いレベルの英単語をマスターしました。結局この 2 つと古文単語 315 のみを入試本番まで徹底的に行いました。

また、最初は単語帳を見るのも嫌だったのでかわいいペンギンのシールを貼り対策をしました。また不安になる度に自分は大丈夫だと唱えていました。

赤本は傾向がつかめればいいのかと思い、また時間的にもシビアなため基礎を重視して、何周もしませんでした。

3 後輩へのアドバイス

君なら大丈夫。1 に基礎を何度も回せということ。できないことだらけが当たり前。テキストを最後で変えるな。ギリギリでもいい。2 に無理だと思ってもダメ元で出願すること。受かります。3 にモチベーションや動機に立派なものはいらない。東京に行きたい、モテたい、なんとなくでいい。勉強しない私に「入試なめてんじゃないよ。そんなんじゃ受かるわけねーだろ」とキレた家族に、今まで自分を笑ってきた奴らにざまあみろと言ってやるということがいい。最後に、これはあくまで私の事例で、結果論に過ぎないということです。

Wさん 【同志社大学 文化情報学部 文化情報学科】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は、具体的な志望校は高校3年生になるまで決めていませんでした。どちらかと言えば文系でしたが、選択科目では数学を選択したりと自分の中でどういう道に進むべきか決めきれずにいたからです。そんな中、文化情報部という文理融合型の学部を見つけました。具体的な内容は、文理の枠に縛られず幅広く学ぶというものでした。その時の自分にすごくマッチしていたのでとても魅力を感じたのを今でも覚えています。さらに、まだ創部して17年ということもあり、より現代的なことを学べるという点も決め手の一つでした。納得するまで考える必要があると思います。

2 学習計画とその内容・方法

学校の学習で心がけていたのは最低でも1週間前からは始めることでした。よく2週間前からと言われていましたが、授業を聞いておけば1週間で十分だと思います。しかし、学習計画の設定は人それぞれ独自のやり方があると思います。定期テストではなるべく早く自分なりに結果を出せる方法をみつけることで、テスト週間をストレスなく過ごせると思います。

高校3年間は部活動や学校行事が忙しくなると、つつい勉強がおろそかになってしまうと思います。私も3年間サッカー部に所属していて平日はほぼ朝練があったので、授業に集中できない日もよくありました。朝練を言い訳に授業をさぼっていいということは決して許されませんが、自分の体調を考えながら上手く乗り切ることを意識していました。何事にも常に100パーセント取り組むことも大切ですが目標達成に向けてできているのであれば大丈夫だと振り返ってみて思います。

3 後輩へのアドバイス

指定校推薦を考えている人は知っているとは思いますが、ほんとに1年生からの成績が重要になります。経験から言うと2年生、3年生になるとみんな目の色を変えたように急に勉強を始めます。そうすると本校は絶対評価なので成績に差がつきにくくなります。なので最初からコツコツ積み重ねることが良い結果につながると思います。数字が全ての世界なので自分が志望するところに通るようにするためには0.1でも評定をあげることが大事です。

可能性を広げるのも自分、可能性を狭めるのも自分。それが指定校推薦だと思いました。高校生活には、小・中学校のようにクラス分けがあって担任の先生と接する機会が多いですが、大学生になるとそれがほとんどなくなり今までとは全く違う生活リズムになると思います。なので残された学校生活を楽しむことを忘れずに進路実現に向けて日々頑張りたいと思います。

×さん 【 立命館大学・文学部・人文学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は英語を勉強したかったので、英語をしっかり勉強できる大学を探していました。そんな時、ある先生に、「英語しか勉強しない大学だとしんどくなるかもしれない。それに、他のことも勉強できる方が、視野が広がるのではないか。」と助言をいただきました。私は、英語が特別得意なわけではなく、ついに行けるか不安だったし、他の勉強もしたいと思ったので、他の大学についてもたくさん調べました。そして、立命館大学は英語に力を入れており、他の教科も幅広く勉強できるし、自分の興味のある分野を学べると知ったので、進学したいと思いました。

2 学習計画とその内容・方法

私は部活動をしていたし、家も遠く、帰ってから長時間勉強するのは厳しかったので、いつも登下校の電車を有効的に使っていました。帰りの電車内で勉強をし、分からないところに付箋つけて、次の日に聞けるようにしました。その後、寝る前に勉強する時間を作り、さっき勉強したところの復習をしていました。

授業中は、電車内やテスト前に勉強しやすくなるように考えて、赤シートで隠せるようにノート作りをしたり、板書以外にも、先生の話聞いてメモを取ったりしました。メモは特に、現代文や古典、英語などで役に立ちました。また、担当の先生の特徴をつかむことも作戦の一つです。これはいつも友達と相談していました。

指定校推薦などで行く場合は、成績が必要であり、テストで点を取ることが大切です。しんどい時でも、進路で悩んでいる将来の自分を想像すれば、頑張ろうと思えてくると思います。出来るときに、出来ることをやる、ダラダラと長時間するのではなく、短時間で集中する。こうすることで、効率よく、無理なく勉強できると思います。

3 後輩へのアドバイス

進学する大学を決めるというのは、すごく大きなことだと捉えている人もいます。実際に私がそうだったし、とても悩みました。しかし、自分の気持ちに素直になって考えてみると、ワクワクしませんか？入学して、大学は高校までとはまるで違う世界のように感じています。大変なこともあるけれど、それも含めて充実しています。自分のしたいことを出来る環境に行くために、今からが頑張り時です。早いうちからたくさん調べて、モチベーションにするのもいいかもしれませんね。今からでも間に合います、自分に合った大学に行けるように、授業やテストに力を入れて、自分の選択肢を増やしてください！

Yさん 【 関西学院大学 総合政策学部 】

1 志望校決定の過程や志望理由

中学生の頃、短くなった鉛筆や余った年賀状を捨てるのではなく、何かの役に立てないかと調べた時に発展途上国に寄付をする手段があることを知りました。そして、実際に寄付をしたことをきっかけに発展途上国の役に立ちたいと思うようになりました。関西学院大学の総合政策学部には、多彩なフィールドワークがあり、国境を越えて、他国と繋がることができます。現代社会ではSDGsの考え方が広がっています。異なった言語を学ぶと同時にSDGsのような国際問題についても考えることができる学部です。特に週に4回、必修の英語100%の授業は自分の英語能力を磨くことができると考え、総合政策学部で学びたいと強く思いました。私自身、英語は苦手ですが、様々な国の先生方と関わることは凄く良い経験になると思います。

2 学習計画とその内容・方法

部活動に励んでいた私は勉強を疎かにしていました。家から学校までが遠いこともあり、通学時間を勉強時間にあてました。通学時間にできることは限られていましたが、通学時間を有効活用したことで少しではありますが、成績に繋がったと思います。授業を聞いていれば、テスト勉強はテスト2週間前からでも間に合います。しかし、難しくてわからないことももちろんありました。授業内でわからないところはわかる子に徹底的に教えてもらいました。黒板に書かれている内容を丸写しするのではなく、自分なりにまとめてノートを作ることで理解度を深めることに繋がると思います。定期テストで中々、良い点数が取れなくても小テストで点数を取ることや提出物は必ず出すことも成績に繋がります。提出物を出す人と出さない人では差があります。この差は指定校推薦で競争する時に大きな差になります。だからこそ、定期テスト以外のところでもしっかりと点数を取れるように勉強に励んでください。

3 後輩へのアドバイス

大学に入学して、高校までの勉強がいかに大切であるかを実感しました。高校までの授業で習ったことを前提にして授業は進むため、日々の学習はもちろんのこと、進学先が決まってから入学するまでに復習することが大切になってくると思います。また、夢や目標を持って、その夢や目標を実現させるために大学について詳しく調べて自分に合った大学を選んで欲しいです。特に指定校推薦は一般入試に比べて、受験日が早く、準備期間が短いです。そのため、受験したい大学についての情報を集めて早めに準備もして欲しいと思います。将来なりたい自分のために勉強に部活、そして時には遊んで、今を全力で頑張ってください！最後に悩み事がある時は一人で抱え込まず、周りを頼ってください。周りの支えは大きな力になるはずです！